

# 2017年度 事業計画

2017年1月1日から2017年12月31日まで

## 1. 2017年度の事業実施方針

1995年にカナダで誕生したフリー・ザ・チルドレン(FTC)は、昨年9月からWEに名前を変更し、新たなスタートをきりました。カナダのクレイグ・キールバーガーという12歳の少年が立ち上げたFTCは、「貧困や搾取から子どもを解放する」ことを目的に、子ども自身が立ち上がり活動する国際協力団体としてスタートしました。活動をするなかで、多くの人たちに「子どもになんか何もできない」「大人になってから問題に取り組めばいい」と言われましたが、子どもの問題なら同じ子どもが立ち上がることで、世界を変えられると信じ、子どもや若者に社会問題を伝え、彼ら自身がその問題に取り組むアクションを起こせるようサポートする活動に力を注いできました。

フリー・ザ・チルドレンは活動を続けるうちに、子どもとして何らかの成果を成し遂げたとき、子どもたちは素晴らしい！と思われがちだけど、実は、その子どもがその成果を達成できた背景には、多くの仲間やおとなが協力してくれていることを実感するようになりました。人はひとりでは生きられない。「ひとりひとりがつながり、思いやることが大切だ。」その考えを伝えていきたいと考えるようになりました。世界をより良くするためには、政治家や専門家など特定の大人だけで解決できるものではない。子どもでも若者でも世界を変える力を持っている。もちろん、年配者でもどんな立場の人でも。「人は年齢や立場に関わらず誰でも才能を持っている。その違いが大切であり、違いのある者同士だからこそ、お互いにつながり連携すれば、より大きな力となって世界を変えられる」と、確信するようになりました。

フリー・ザ・チルドレンは、子どもでも、おとなでも、誰しものが大切にされ、違いや個性が尊重され、誰ひとり取り残されない社会を目指し、地域のどこかで起きている問題は私たちの問題だと気づき協力できるような世界をつくりたいと考えるようになり、このたび20年以上世界で親しまれた「フリー・ザ・チルドレン」という団体名から、「WE」へと生まれ変わりました。名前は変わりましたが、今後も子どもや若者に対して社会問題を伝え、問題に取り組むためのスキルを子どもや若者に伝えるリーダーシップトレーニング事業に力を入れていきます。

これを受けて、2017年から、日本でもフリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、WE Free The Childrenというロゴで活動していきます。そして、これを機に、ミッションやビジョン、キャッチコピーの改定をいたしました。日本でも新しくなる私たちを、2017年もどうぞよろしくお願いいたします。

▼2017年度は、以下のことに重点的に取り組みます。

1. フィリピン国立盲学校と連携しながら、フィリピンでの未就学及び就学児の障害者支援事業を実施していきます。そのために必要な調査活動や環境整備に努めます。
2. 学校や塾など教育機関との更なる連携を行います。そのために、新しい開発教育プログラム「WE Schools」を開発し、教育機関に導入、加盟頂けるよう広報活動を行います。
3. SDGsで掲げる目標の達成に向け、国内の社会問題について子どもや若者、一般の方が学ぶ機会を創出します。具体的には、国内の子どもの貧困や、障害者差別や子どものいじめの廃絶に向けた教材開発や出張講演の実施、動画を通じた意識変化を促します。
4. WE Dayの開催を視野に入れ、本年度2017年から準備チームを設置し日本での開催の可能性を探り実施に向けたネットワーク構築及び資金調達に向けた活動を実施していきます。

▼ビジョン・ミッション、キャッチコピー

ビジョン:世界中のすべての人々が誰一人取り残されることなく、心もからだも健康で、自身の夢や希望を実現でき、国籍・宗教・年齢・性別・文化に関係なく、互いを認め合い、互いに勇気づける多様性のある社会。

ミッション:上記のビジョンを達成するために、子どもの権利を守り、子どもの可能性を引き出すことが大切だと考えていることから、2つのFreeを目指します。

1. 国内外の貧困や差別から子どもをFree(解放)する。
2. 「子どもには世界を変えられない」という考えから、子どもをFree(解放)する。

キャッチコピー:「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に WE Free the Children

以上、「誰ひとり取り残されない社会」の実現に向け、多くの方々とともに連携し、より良い活動を実施していきたいと考えておりますので、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

代表理事 中島 早苗

## 2. 事業の実施に関する計画(案)

### (1) 子ども主体事業:担当→子ども代表委員による企画

活動名	活動内容	受益対象者の範囲 及び人数
子ども代表委員 企画活動	2017 年度の子ども代表委員によって企画運営します。全国の子どもメンバーがより活発に良い活動し、子どもメンバー間で情報交換や交流を深めるための活動を企画していきます。	全国の子どもメンバー 800 人
メンバー チーム活動	メンバーとして登録する子どもやユースが目的に応じてチームを組んでの活動します。 (チョコプロ、インドチーム、フィリピンチームなど)	登録するメンバー 1500 人

### (2) 子ども活動応援事業

活動名	活動内容	受益対象者の範囲 及び人数
子ども活動家育成	子ども・ユースを対象にしたリーダーシップトレーニング「Take Action Camp」の開催。 ▼Take Action Camp とは・・・ 子どもや若者が国内外の社会問題を知り、その解決に向けてアクションをおこすためのノウハウを学び、自分に何が出来るかを考えるための合宿型育成研修イベント  【日 本】春の連休や夏休み中に 3～5 日間で実施予定 【カナダ】トロントにて 1 週間のコースで実施予定(全行程 10 日間)	子ども・ ユースメンバー 80 人
子どもメンバー 活動サポート	①子どもメンバーなどで構成される活動チームの育成、サポート、チームの存在を紹介する広報活動を実施。	チームに所属する 子どもメンバー
	②学校や地域のグループ活動のサポート 各地の学校・グループの活動をサポートする体制を整える。特にWEBサイトの充実を図る。	全国の 子どもメンバー 800 人
	③子ども主体事業へのサポート 子ども代表委員主導による企画へのサポート	子ども代表委員
	④メンバーからの質問、要望、活動へのサポート 毎月の活動ヒント講座、子どもメンバーからの質問対応、情報提供など また、子どもが活動しやすい会員制度の検討	全国の 子どもメンバー
	⑤季節に合わせたキャンペーンキットの開発・提案	子どもメンバー及び 学校関係者
国内の子ども支援	【国内の子ども支援】 国内の子どもの権利を守るため、権利を奪われ支援が必要な状況にいる子どもの状況や問題に直面する国内の子どもの支援の方法について調査を継続する。必要に応じて他組織とネットワークを構築する。また、日本の貧困やいじめ、差別などの問題について学ぶワークショップ開発し、各地の学校やイベント等で実施する。	日本で困難な状況に ある子ども

### (3) 外部ネットワーク事業:

活動名	活動内容	受益対象者の範囲及び人数
外部ネットワーク構築	①CL-Net(児童労働ネットワーク)・NGO労組協働フォーラムへの運営委員参加と事業実施 ②JNNE(途上国の子ども教育支援事業 NGO のネットワーク)への参加と事業実施 ③JANIC、DEAR、他組織の会員になって他団体と繋がって活動する。 ④日比 NGO ネットワーク(JPN)、SDGs 関連などのネットワークへの参加 ⑤世田谷区や東京都との教育の観点から連携事業の実施を計画する。 ⑥関西での NGO/NPO ネットワークへの参加	子どもの権利を侵害されている開発途上国及び国内の子ども

### (4) アドボカシー(啓発)事業

活動名	活動内容	受益対象者の範囲及び人数
メンバー育成講座	ファシリテーター養成プログラム、FTC 国際アカデミーなどを実施しメンバーを育成する。ファシリテーター講座では大学生・高校生をファシリテーターとして育成し、学校での出張ワークショップやキャンプに派遣する。	メンバー100人
スピーカー派遣	① 世田谷区での出張ワークショップの強化 世田谷区内の公立の小・中・高校にて、地域や社会の問題に目を向け、アクションをおこすための出張ワークショップの実施。 ②全国出張講演 国際協力や国際理解教育、人権教育に関心のある学校からの要請を受け、出張講演を実施する。 2017年度目標:95回、80校での実施を目指す。 ③教員対象講演会実施 WE Schools の周知等のため、教員向けのセミナーや講演会を実施する。	子ども・一般:10,000人 教員:100人
教材開発	① WE Schools 教材開発(子どもの権利や共生社会、世界の貧困下にいる子どもの現状について考えるワークショップ教材の開発) ② キッズスピーチ副教材開発	国内の子ども・教員 10,000人
イベント	他団体主催によるイベントへの参加及び FTCJ 主催イベントの開催:パネル展示、動画上映、スピーチなどを通して、権利を奪われた子どもの現状や団体活動紹介をする。同時に可能であれば物販活動も行う。 予定)グローバルフェスタ、メーデー中央大会、ワン・ワールド・フェスティバル等。 また、WE Day の開催を視野に入れ実施のための特別チームを設置し、外部組織からコンサルテーション支援を受けながら調査、準備を行っていきます。	10,000人
メールマガジン ニュースレター アニュアルレポート の発行	①メールマガジンを毎月2回発行する。 ②ニュースレター(年3回)を発行する ③ ニュアルレポート(年1回)を発行する。(各600部)	2,500人
ホームページの開 設運営	①ホームページのリニューアル作業、更新。 ②サーバー管理	子ども、一般
物販・貸出	貧困層の自立につながるフェアトレード商品や国際理解教育教材(DVD)や書籍などの仕入れ、紹介、販売、管理を行う。また店舗での委託販売先の開拓も開始する。 2015年度目標:収益200万円を目指す	海外支援の子ども、日本の子ども・一般
出版	Take Action 日本語版の出版 社会問題に取り組むための子どもや若者向けの手引書となるような書籍の執筆、出版	子ども、一般 3000人

(5) 自立支援事業

活動名		活動実施内容	受益対象者の範囲及び人数
インド	CCD 支援	西ベンガル州コルカタ付近にある現地 NGO・CCD を通じて「マクタニール子どもの家」(養護施設)で生活する元ストリートチルドレンなどの貧困家庭出身の子どもたちや貧困コミュニティへ教育支援や健康支援事業を行う。また日本の支援者と受益者の子どもと手紙を通じた交流「文通プログラム」を運営する。	40 人
	FTC ネットワーク活動	ラジャスタン州ウダイプール周辺の貧困農村地域を対象に、教育支援、水源確保、栄養強化及び健康向上、農民の収入向上支援を行い、農村の生活環境向上と、子ども達の教育へ充実を図る。	1500 人
フィリピン	ミンダナオ島コミュニティ自立支援	ミンダナオ島内の先住民民族ディババワン・コミュニティの子どもへの奨学金を通じた教育支援や、子どもや若者への防災や健康、保健、ディババワンの文化を継承するワークショップを通じて自立支援事業を行う。また日本の支援者と受益者の子どもと手紙を通じた交流「文通プログラム」を運営する。	20 人
	その他貧困地域支援	フィリピンの支援が必要な貧困地域のニーズをもとに、現地パートナー団体と協働し、教育、保健、水、収入向上の側面から地域の自立に向けた支援活動を行う。2017年度はミンダナオ島コミュニティにて高校における農業科拡充支援を実施する。	45 人
	障害者支援	フィリピン国立盲学校と連携し、同学校に通う学生が安心安全で健康的な環境で質の良い教育を受けられるよう寮の屋根の改修事業とスクールバス購入支援などを行う。更に、未就学児童の状況や学校に通う子どものニーズを調査し、国立盲学校に通う子どもたちの自立を目指し必要な教育支援を実施する。	フィリピンの未就学視覚障害者 150 人
ケニア	FTC ネットワーク活動	ナロック群南ナロック県エシノニ村を対象に、水支援事業「ケニア深井戸建設及び給水システム確立プロジェクト」を行い、持続可能な人々の健康向上及び生活の質的向上を目指す。また、女性の収入向上支援を行い、農村の生活環境向上と、子ども達の教育へ充実を図る。	1500 人
スタディツアー	インド、フィリピン、	春休みや夏休みにフィリピンやインドの支援先を訪問し、現地の子どもや地域の人々との交流や、ボランティアを行うツアーの実施。貧困の中で生きる子どもの現状とその課題を学び、帰国後にその現状を伝えるにはどういった活動をしたらよいかについても考える。ツアーによってはホームステイプログラムもあり。  フィリピン:3 月予定(中高生、大学生、一般対象)、 インド:8 月予定(中高生、大学生、一般対象)	25 人
その他地域	FTC ネットワーク活動	FTC インターナショナルが行う上記以外の国(シエラレオネ、ハイチ、中国農村部、エクアドル、ニカラグアなど)の貧困農村地域への自立支援事業を FTC ネットワークとして取組む。	300 人

(6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

活動名 (担当部署)	活動実施内容	受益対象者の範囲及び人数
個人情報管理	問い合わせを頂いた個人情報、組織情報の管理。 これまで活用していたアクセスからセールスフォースヘデータを移行し、メンバーサポートや資金調達のためにそれらのデータを活用していく。	-
問い合わせ対応	団体へのメール、お手紙、ファックス、電話等によるお問い合わせに対応する。	メンバー・一般
広報	①団体紹介パンフレットの改定と発行 ②学校・教員向け向けの案内資料の整備 →WE Schools 出張講演・テイクアクションキャンプ・スタディツアーの広報を強化する ③キッズパワーサポーターの新チラシの配布	メンバー・一般
翻訳	海外からの資料を日本語に訳したり、日本語のものを英語などに翻訳して問題を提起し活動を紹介する。翻訳チームが作業をサポート。	メンバー・一般
資金調達	①寄付者へのお礼状の改定 ② ツズパワーサポーターの新規開拓 →現状:個人 89人 年間 989,500円、法人 3社 200,000円 ③FTCJ 同窓会と連携した資金調達の実施 ④自主事業(キャンプ、スタツア、出張講演、物販)の目標達成 ⑤企業との連携強化 ⑥助成金の申請	-
危機管理	メンバーが安全に活動できる環境を整えるためのチャイルドプロテクションの強化	メンバー
総務・労務	①事務所で活動するスタッフの労働環境の整備 ②就業規則の改定 ③税務署(税金、認定)、労働基準監督署、都庁資料作成、提出	事務局スタッフ及びメンバー
会計	全ての事業に関する資金の流れ、税金支払いなどを管理し会計面の説明をする。また、認定NPO法人の取得に伴う会計作業の整備と実施。	メンバー・一般
事務所運営	FTCJの全ての事業及び活動の拠点となる事務所の運営とそれに係る経費の管理。	メンバー・一般